

# 原発再稼働反対・集団的自衛権反対 11・2日比谷デモから 11・30 A 2-B-C 上映会にご参加を



集団的自衛権の行使容認は、日本国憲法を踏みにじる暴挙です。日本が戦争できるようになり、武力で守ろうと言うのですか。武器製造、武器輸出は戦争への道です。いったん戦争が始まると、戦争は戦争を呼びます。歴史が証明しているではないですか。日本の未来を担う若者や子どもたちを脅かさないでください。被爆者の苦しみを忘れ、なかったことにしないでください。

福島には、原発事故の放射能汚染でいまだ故郷に戻れず、仮設住宅暮らしや、よそへ避難を余儀なくされている方々がおられます。小児甲状腺がんの宣告を受けておびえ苦しんでいる親子もいます。このような状況の中で、原発再稼働等を行っていいのでしょうか。使用済み核燃料の処分法もまだ未知数です。早急に廃炉を含め検討すべきです。

(8月9日長崎平和祈念式典での城台美彌子さんのスピーチ)

**NAZEN埼玉 (埼玉反原発アクション)・代表: 高木美佐子 090-4000-2756 [takagi.339@ezweb.ne.jp](mailto:takagi.339@ezweb.ne.jp)**

〒340-0211 久喜市上内 478 わし宮団地 2 - 39 - 307 宮原方

メール [saitamaaction@yahoo.co.jp](mailto:saitamaaction@yahoo.co.jp) ブログ: [//blog.goo.ne.jp/saitamaaction](http://blog.goo.ne.jp/saitamaaction)

# 小児甲状腺ガンが多発している

7・20 診療所報告会杉井医師報告(要旨)

みなさんは、あの3・11の原発の爆発で、あのときだけの爆発で終わっているという意識ではないのでしょうか。しかし、いまま爆発は続いている。ゆるい形で原爆が続いている。未だコントロールできないでいる。汚染水の漏れは、これまでのものを冷やしているからではなく、続いている爆発の汚染で流れ続けているのです。安倍首相は、オリンピック委員会で「アンダーコントロールできている」「福島の問題は、現在も未来も問題ない」と言ったが、おこがましいもいいところだ。

“福島の問題”これが、『おしんぼ』の問題とつながっている。あのマンガでは事実だけを取上げて表現している。直接、原発に結び付けているわけではない。それなのに、官房長官の談話という異例のことになった。国のミリもゆずれない思いが出てしまっている。情報を隠している政府は、福島の状況がそれぐらい厳しいことを承知している。

福島県民健康調査検討委員会による先行調査が報告されている。一巡目を先行検査というが、これは「チェルノブイリでは、小児甲状腺腫瘍が5年後から発症した」という根拠のない前提で計画されているため。座長の山下俊一は「放射線の影響は、実はニコニコ笑っている人には来ません。クヨクヨしている人には来ます。」(2011年3月21日福島テルサの講演会)と言ったが、対象368651名、受診295511名、二次検査が必要な2070名中1754名が福島医大で生検を含む検査治療を受けている。その1754名中、悪性・悪性疑いが90名。51名が手術を受け、乳頭がんが49名である。年間百万人に1人の発生と言われる甲状腺がんが明らかに多発していると言える。2~3人と思っていたのが10人。これからもっと増える。

これらの先行検査で県民の不満・不安が噴出した。①結果の説明がほとんどない。②画像の受診者への開示が「データが改ざんされる恐れがあ

被ばくと向き合い、命と健康を守る拠りどころ

## ふくしま共同診療所 報告会 in さいたま市

日時 7月20日(日)

13時開場 13:30開会

会場 さいたま市民会館うらわ

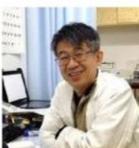
705, 706 集会室

(JR浦和駅西口 徒歩7分) 参加費 700円



お話 杉井 吉彦 医師

「甲状腺エコー検査から見えてきたもの」



杉井吉彦医師：東京医科大学卒業後、武蔵野赤十字病院勤務。整形外科副部長を務める。92年より国分寺に本町クリニック開設、院長に。3・11事故を受け、「ふくしま共同診療所」建設に尽力。12年開設より診療にあたる。



▲ふくしま共同診療所  
「福島の子どもの命と健康を守ろう」と募金によって建設された。今年3月11日「報道ステーション」特集で紹介された。

「100万人にひとりかふたり」と言われていた子どもの甲状腺がん。福島では現段階で、2.7万人の方が検査を受けてうち3.3人が甲状腺がんとなり、摘出手術を受けている。にもかかわらず福島県では「原発の影響ではない」とされてしまい、福島県立医大は「受診者に直接説明するな」と言う。内閣府は「被ばくと向き合い、福島の子どもたちや大人たちによりそう診療にあたる杉井医師のお話を聞きます。」



NAZEN さいたま (＝「埼玉反原発アクション」)  
「すべての原発をすぐなくそう!」全国会議・さいたま  
〒340-0211 埼玉県久喜市上内478-1 わし宮団地2-39-307 宮原方  
Blog <http://blog.goo.ne.jp/saitamaaction>  
Email: [saitamaaction@yahoo.co.jp](mailto:saitamaaction@yahoo.co.jp)  
TEL:090-4000-2756 高木 takagi.339@ezweb.ne.jp

る」と拒否。③多発しているにもかかわらず「被曝の影響は考えられない」を根拠なく繰り返す、から。

それで、本格検査では、県内の医療機関に協力を求め、県が医療機関を認可し、福島医大と実施要項を締結することになった。ふくしま共同診療所は、県の認可を受けて医大との実施要綱を結ぶこととなったが、超音波実施時に「検査結果を実施機関では、その場で検査結果を伝えない。」との項目があり、同意できなかった。

①検査結果を伝えずに、福島医大の結果(2ヵ月後)を待っていたのでは、甲状腺ガンの早期治療の機会を失ってしまい、医療上の責任が果たせない、②協力医療機関の検査能力を全く信用しておらず「協力」する姿勢が見られない。

福島医大の県民の心からの検査・医療要求に全く応えない姿勢に怒りを覚える。

6月末、福島医大は実施要綱を変更、説明してもOKと言ってきた。

18歳以下の県民に対する2順目の甲状腺超音波検査（本格検査）が4月から始まっている。2014年3月11日に「報道ステーション」で、共同診療所が取上げられ、その時点で、33名の甲状腺ガンが言われた。

鈴木教授（福島医大）を筆頭とする県民健康管理調査検討会の「被曝の影響とは考えにくい」という見解は果たして正しいのか？

「チェルノブイリでは5年後から甲状腺ガンの増加が」と言われ、このことと福島を並べて言っているが、チェルノブイリ原発事故当時はエコーもなく、検査が行われていなかった。きちんと統計が残っているのが5年後のものしかないというだけで、その時点では触診でもわかるほど甲状腺ガンの進行だった。

鈴木教授は、「見つけなくてもいいものを見つけている」と言っているが、広島原爆、チェルノブイリ事故のように政府にとって不都合な真実を覆い隠そうとするときの常套手段。

5.2<sup>ミリの</sup>のガンが見つかっている。5ミリ以内の結節でも定期的な経過観察が必要である。B判定の子どもへの再検査の連絡が半年以上もなかった例もある。チェルノブイリでは、小児甲状腺ガンの進行が早く肺やリンパに転移する率が高いと言われている。

放射線による健康被害は時間の経過とともに現れる。白血病、心臓などその他いろいろな症状が出る。継続した検査による早期発見、早期治療しかない。「放射能は危険なもの」であり、保護者が子どもたちを心配するのは当然である。大人も含めた定期的な健康チェックは、本来、国が体制を整えてやるべき。現在はこれらもの検査は保険が適用されない。

これから先、福島では内部被曝が問題になっていくのではと、とても心配している。肥田先生の話から原爆病をどのように表現したらよいか判らないとき、「ブラブラ病」といったことがあった。とても、うまく表現していると思う。気力を失ったり、どこかが具合が悪く、だるく、

何とも言えない症状になるから。

外部被曝は、そのところから離れば放射能から離れることができる。しかし、内部被曝は、体内に放射能が入ってそこにとどまってしまう。細胞に近くなればなるほど、細胞への影響が大きくなり、細胞の中のもの壊されていく。再生能力のDNAが壊されていく。

福島の人たちはガンの恐怖をずーっと抱えている。それを考えると大人は子どもに対する最大の責任として避難することを考えて欲しい。とにかく一番は避難。放射能はゼロでなければならないのだから。

再稼働はあり得ない。福島県では「県内の再稼働」など、どの勢力も主張していない。九州電力「川内原発」の再稼働にむけて「新規規制基準に適合」との「審査書案」を了承。しかし医療施設の避難計画はできていないし、不可能に近い。最も弱い人が最も重いものを背負うことになる。「重大事故にそなえて」安定ヨウ素剤の個別事前配布が7月に始まるが、戦争中に青酸カリを持たせたのと同じではないか。

汚染水は、ものすごいタンクの数です。中間処分場というが、そこが最終処分場になるにきまっている。除染はできない。山林など3%しかできていない。チェルノブイリより放射線が高いところもある。国は安心・安全キャンペーンをはるが帰れない。帰還可能地域と。避難地域をジャバラでしきっている光景。

仮設住宅はアウシュビッツと同じ。関連死が多い。孤独死も多い。1ケ月に50人ぐらい亡くなっている。原発による虐殺死と同じ。一人世帯の仮設住宅は4畳半ひと間の1Kしかないため、ベットが入れられず、不自由な暮らしを強いられている。一刻も早く人間らしい暮らしができる住宅を保障することが求められる。

こうした状況で、福島の人たちの心と健康のよりどころとなる診療所が不可欠。開院後、18歳以下の約500名（18歳以上含めると1000名以上）の甲状腺エコー検査をやってきた。約6割の患者に異常がある。放射線による健康被害を認めない国・東電と闘わなければダメだ。

# 福島県知事選に対する NAZEN フクシマの態度

## 「オール福島」に対して、ふくしま共同診療所を軸にした 〈避難・保養・医療〉の原則と、たたかう労働組合の建設でたたかおう！

本日10月9日告示、10月26日投票の福島県知事選は、「オール福島」の名のもとの福島圧殺・切り捨て攻撃との闘いです。安倍政権とそれに屈した既成の全党派・勢力によるこの攻撃は、「フクシマの怒り」を絶望と失望、敗北主義で粉砕しようというものです。「よしましな」誰かを選択するというのではなく、「福島の怒りで安倍政権を打倒しよう！」が私たち福島県民の回答です。私たち NAZEN フクシマは、この福島の怒りで、動労水戸をはじめとしたたたかう労働組合と、〈避難・保養・医療〉の原則をかかげるふくしま共同診療所を拠点とした生き抜く団結をつくり、10・16郡山国鉄集会－11・2労働者集会への大結集を訴えます。

安倍政権は、福島の怒りの沸騰に恐れおののいています。福島県知事選では、自民党独自候補を下ろし、民主、社民、連合との相乗りで、「オールふくしま」を掲げる内堀前副知事を推薦しています。内堀候補こそ中間貯蔵施設を受け入れて引退した佐藤前知事の後継者指名を受けた人物であり福島切り捨ての張本人です。

一方、日本共産党もまた独自候補の擁立をせず、「脱原発＝代替エネルギー」を掲げる熊坂候補に相乗りし、「オール福島」を標榜しています。医師で、「甲状腺外来も経験」を押し出し、被曝問題を取り上げるようなポーズを取りながら、小児甲状腺がん多発には一言も言及せず、「福島の復興なくして日本の復興はない」を掲げる熊坂候補は、復興のためには「最小限」の被曝を受け入れろということが本音です。政策説明会で、県立医大やIAEAとの連携を表明したことに明らかです。だからこそ「被曝など気にしないで生活しよう」と医大を支持する民医連が牛耳る日本共産党が、「オール福島」を声高に叫んで推薦を決定したのです。安倍と日本共産党は、県民にどちらの圧殺者が良いかを選択しろと言っているに等しいのです。実に醜悪で許し難いことです。

これに対し、井戸川元双葉町長が「避難の権利と全面的補償、帰町運動絶対反対、政府と県、医大の被曝隠し弾劾」を掲げて立候補しています。被曝からの避難、移住は労働者人民の当然の権利であり、政府と東電は無条件に補償するべきです。しかし、それは200万県民、13万避難民と全国の労働者人民が団結し、闘う労働組合を軸とした主体的決起ではじめて実現できる闘いであり、「命より金」の社会＝新自由主義を打倒する闘いです。現実の格闘を抜きにして、県知事選の政策としてのみ掲げることは真に階級的団結の道とは言えません。

福島の人々は3・11直後から、原発事故と被曝の現実と必死に格闘してきました。避難すべきことははっきりしているが生活のために離れられない現実、道一本で避難か否かを分けるようなすさまじい分断の現実があります。現在も県内外13万人の避難者、県外に避難した子どもたちは1万人以上、被曝の恐怖と不安、未来を奪われた生活で震災関連死は1700人を越えています。そして、小児甲状腺がんが103人、100万人に1人のはずなのに3000人に1人が発症し、6000人に1人がリンパ節転移など切除手術が必要なほどの状態にもかかわらず、「放射線の影響ではない」がくり返されています。

環境省「東電福島第1原発事故に伴う住民の健康管理に関する専門家会議」（長滝重信座長）第4回

回会合（14・3・26）では、「年間1ミリシーベルト以上の場所にすんでいる人たちへの健診や補償を確約することが、この委員会がめざすべきものではないのか？」との崎山比早子さんの追及に、長滝座長は「今は1ミリシーベルトとかいう観念的な議論をしているのではない」と反論、ICRP委員でもある丹羽委員は「両親が離婚しても避けなくてはいけないほどのリスクなのか、というようなことをわれわれは議論しているのだ」と言い放っています。つまり、「政府が補償したらウクライナのように国家がつぶれてしまう。だから私が来た」と公言してはばからなかった山下俊一のように、政府は福島への被曝と健康被害を隠ぺいし、切り捨てようとしているのです。

だからこそ、私たちは全国の医師とともに診療所建設運動を起こし、ふくしま共同診療所を実現し、県立医大と対決しています。すでに1000人を越える甲状腺エコー検査受診者があり、子どもたちの未来と命を守る拠り所となっています。さらに、保養活動は医療と連携し、健康と命を守る重要な活動であり、また県内外の団結で生き抜く闘いでもあります。ふくしま共同診療所はこのような共同の闘いの中で、〈避難・保養・医療〉の原則を確立しました。「被曝ゼロ」を大原則として避難を薦めるとともに、福島の地で生きるを得ない人たち、避難で困難を強いられている人たちとともに生きる医療をつくっていかうとするものです。

そして、動労水戸の被ばく労働拒否の闘い、常磐線竜田延伸阻止の闘いは、闘う労働組合こそがあらゆる分断を打ち砕き、すべての労働者人民の団結を取りもどし、生活と未来を守る拠点となることを実践で示しています。9・11JR郡山総合車両センター包囲闘争は、外注化反対を真正面から掲げ、福島圧殺攻撃を職場生産点から打ち砕く闘いとして大成功をかちとりました。福島の怒りと安倍政権－葛西JR体制打倒の国鉄決戦を一つのものに押し上げました。外注化＝多重下請け構造のもたらした究極の姿を福島原発事故という形で目の当たりにした私たち労働者人民は、外注化阻止の具体的な闘いのなかに労働者人民の未来を見ることが出来ます。原発労働者が労働組合を作り団結して闘うなかにしか日本と世界の労働者人民の未来は絶対に展望できません。

今、福島の怒りが為すべきことは、原発再稼働、原発輸出、そして戦争までやろうとしている安倍政権をうち倒すことです。県知事選で誰に私たちの未来を奪われるのかを選択するのではなく、人間としての根源的な怒りを解き放ち、団結して立ち上がる時です。「復興」一辺倒の「オール福島」のもとに階級性を解体し、資本主義・新自由主義の延命をはかろうといういっさいの動きに私たちは反対しなくてはなりません。告示直前まで行われた「候補者1本化」策動などの考え方そのものを粉碎し、激しい分岐を促進していくことが労働者人民の生きる道です。福島の怒りをとことん解き放ちましょう！ 安倍政権打倒へ立ち上がりましょう！

## 11・30 A2-B-C上映会にご協力を スタッフ大募集中

- ◎チケット販売・チラシ配布を手伝って下さる方を求めています。
- ◎事務局までメール・TELを
- ◎スタッフ会議 11月10日（月） 18：30～  
浦和パルコ9F市民活動サポートセンター



日本在住のアメリカ人監督イアン・トーマス・アッシュが、カメラにおさめた「フクシマ」

# A2-B-C

Directed by IAN THOMAS ASH

フクシマで生きる子どもたちに、今何が起きているのか

# 11・2日比谷集会への城臺さんの訴え

## 戦争・原発を止める ために団結しましょう

被爆者 NAZENナガサキ

城臺美彌子さん



主義は「日本を取り戻す」と高らかに叫び、「積極的平和主義」と、真の平和とは似ても似つかぬ軍事用語を振り回しています。

「見解の相違」と答へ、足早に去ったのです。また福島では健康被害は「今もこれからのない」と断言し、「汚染水はコントロールされている」と大うそをぬけぬげと外国向けに発言しています。

闘いは、ナガサキ・ヒロシマの闘いでもありません。このように人々にこのまま国政を任せていたから、多くの国民の命や人間らしく生きる権利をみすみす奪われていくこと間違いなしです。黙って見ているわけにはいきません。

「しかも、短時間で、切羽（せっぱ）詰まったようにあんなに急いで集団的自衛権の行使容認の閣議決定を行ったのに、現国会審議では集団的自衛権に関してはなりを潜（ひそ）めたように出てきません。

国会周辺の声や集会に集まった人びと、国民の強い批判をかわす手でしょうか。たとえ質問されても答えはいつも変わりません。きつとコピペで答えているのでしょうか。

国会では必ず「国民には納得のいく説明を」と答弁する人が、これもあつとに8・9長崎平和祈念式典後、「集団的自衛権の容認は納得できない」と迫った被爆者に

闘争などをやり、生きていく力を得ました。日本の未来のために、戦争・原発を止めるために集会に参加し、ともに団結いたしましょう。一人ひとりは微力（びりょく）ですが、力が無効ではないを合（あ）いこばに団結し、安倍政権にはお引き取りを願（ねが）いましょう。

戦争が終わってからも69年しか経っていません。それなのにもう戦争の甘い汁を吸いたい人びとが戦争をしたがっています。

日中戦争勃発（ぼつぱつ）から15年、その最後の4年間はアジア太平洋戦争にたぶつたのです。

戦争には必ず犠牲になる労働者、女、子ども、その裏にニヤニヤと笑いつける死の商人たちがいることを忘れてはなりません。

あの哀（い）まわしい戦時中、戦争を押し進めた上に、その責任をまったくつとめることなく、うまく生き延びて、再び国政

き、その回顧（かいこ）

労働組合が立ち上がり、職場で闘う労働組合をつくってほしい。かつて私も教育現場で日教組組合員として38年間、賃上げ

### 【当面する行動方針】

#### ■11・2全国労働者集会

11月2日(日)正午  
日比谷野外音楽堂 集会後デモ

#### ■11月10日 A2-B-C上映会

実行委員会  
18:30～、浦和パルコ9階  
市民活動サポートセンター

#### ■11月30日

#### 映画「A2-B-C」上尾上映会

上尾市コミュニティセンター  
第一部10:30～  
第二部14:00～  
駅前までのデモ 16:30～

本気の本物の闘いで国と闘おう！

NAZEN さいたま(埼玉反原発アクション)  
11・2 日比谷集会集合場所

11:30～40 有楽町ビックカメラ前  
アクションの旗目印